

# 柏南ロータリークラブ 会報

2025-2026 片岡達生年度



よいことのために  
手を取り合おう



**第46代会長 片岡 達生**  
**幹事 井畑 和士 齊藤 洋子**

第2026回 2025年10月19日 (日)

第2027回 2025年10月24日 (金)

## 光ヶ丘地域ふれあいまつり①

光ヶ丘地域ふれあいまつりに参加して  
— チャリティ販売を通して地域とのつながりを —

10月19日(日)、麗澤大学の施設「はなみずき」を会場に、第16回光ヶ丘地域ふれあいまつりが開催されました。今年のテーマは「いろいろな人がいる街はみんなが暮らしやすい街」。

柏南ロータリークラブは、昨年に続き株式会社マーシェルさんと協力し、ユニチャーム製品を中心とした日用品のチャリティ販売ブースを出展しました。

マーシェル社はユニチャームの物流子会社・ユニ케어のパートナー企業であり、同社の協力により、紙おむつやペット用品、掃除用具、入浴剤、ハンドクリームなど、ドラッグストアに並ぶような日用品をアウトレット価格で提供しました。販売ブースには地域の方々や他団体の出展者も立ち寄り、掘り出し物を見つけて笑顔を見せる姿が見られました。

当日は、予報にない雨が断続的に降るあいにくの天候で、途中で売り場のレイアウト変更を余儀なくされましたが、実行委員会スタッフの皆さんの協力もあり、最後まで販売を続けることができました。天候に加えて、地域で他のイベントと重なった影響もあり、来場者数は昨年より少なめでしたが、立ち寄ってくださった多くの方々に喜んでいただけたと思います。なお、販売収益の一部は「かしわ障がい者をむすぶ会」を通じて地域の障害福祉に役立てられます。(裏面につづく)



## 光ヶ丘地域ふれあいまつり②

今年のまつりは、障がいの中でも「聞こえない」方々に焦点を当てた内容でした。オープニングでは「デフリンピック」の映像が上映され、聴覚障害者のスポーツ大会が「パラリンピック」とは異なる理念で開催されていること、そして2025年の東京大会が100年目にして初の日本開催となる記念すべき大会であることを学びました。映像を通じて、聾者の方々が自らの言語である手話を使って自立し、スポーツを通して輝く姿に胸を打たれました。



障がいの有無を越えた貴重な対話の時間



太田和美 柏市長も登壇

続く交流会では、柏市聴覚障害者協会の木村さんから、聴覚障害者の生活や社会参加の実際、デフリンピックの意義などについてお話を伺いました。手話通訳者の方からは、話の要点を文字で伝える「要約筆記」など、情報保障の仕組みや支援の現状について説明があり、通訳という仕事のやりがいや難しさについても触れられました。また、障がいを負った方々の体験談も交えながら、コミュニケーションの壁を越える大切さを感じる時間となりました。さらに、太田和美柏市長からは「ノーマライゼーションかしわプラン」について説明があり、共生社会の実現に向けた意欲が語られました。

今回のまつりを通して、聴覚障害のある方々は私たちのすぐそばで暮らしながら、手話という「もう一つの言語」を用いて社会と関わっていることを実感しました。幼少期から聾学校で学び、生活に必要なスキルを身につける彼らの世界は独自の文化として確立されており、デフリンピックのような国際大会を支える基盤にもなっています。一方で、私たちにとって「聞こえない世界」は遠い存在のように思えます。だからこそ、互いを理解し合う場としての「ふれあいまつり」や「デフリンピック」の意義をあらためて感じました。柏南ロータリークラブとしても、今後の奉仕活動に向けて多くの学びと気づきを得た1日となりました。

## 11G ラーニングセミナー

### ー学び合い、つながり合うロータリーへー

#### 【開会を彩った、力強く透きとおる歌声】

10月27日、11Gラーニングセミナーが開催されました。開会の幕を飾ったのは、柏南RCの法人会員である株式会社LUCE BEAUTY所属の歌手・齊藤伶奈さんによる「君が代」の独唱。金本元章ガバナ―補佐のたつての要望による出演で、その力強く透きとおるような歌声が会場を包み込みました。出席者の誰もが「よくぞ日本人に生まれけり」と感じるほどの見事な歌唱で、地区大会に続き、会場のロータリアンの心に鮮烈な印象を残しました。

#### 【「ロータリーを楽しもう！」4人の講師が語る】

ラーニングセミナーでは、「ロータリーを楽しもう！」をテーマに、理念・運営・会員増強・親睦の4分野から講演が行われました。登壇したのは、理念委員長の平塚新兵衛氏、管理運営統括委員長の松永達人氏、会員増強・基盤向上委員長の佐々木高治氏、フェローシップ・親睦活動委員長の安田勝紀氏の4名。「ときどきつながる関係性の大切さ」「新しい会員制度」「同好会を通じたつながりの力」など、現場の実例を交えた講演に、多くの共感と気づきが生まれました。

#### 【パネルディスカッション「未来の11グループのありかた」】

後半のパネルディスカッションでは、「私たちが成長していくためには」をテーマに活発な意見が交わされました。質疑応答では、「あらためて親睦の大切さ」を再認識する声や、千葉RCでの会員減少から増加への転換事例、衛星クラブや米山学友の活用などが語られ、実り多い時間となりました。とりわけ注目を集めたのは、柏南RC竹村隆一郎前会長の発言です。法人会員制度を導入し、実際に運用している柏南RCの経験と課題を紹介し、現場から率直な質問を投げかけました。これに対し佐々木委員長からは、2790地区の中で法人会員制度を採用しているのは勝浦RCと柏南RCの2クラブのみであり、そのうち実際に法人会員が在籍・運用されているのは柏南RCだけであることが明かされ、会場にどよめきが起きました。両者の間では、今後も情報交換を続け、時代に即したより良いクラブづくりを進めていくことが約束されました。

#### 【学びと親睦で「ともに育つ」11グループへ】

学びと親睦を通じて、11グループが「ともに育つ」関係を再確認した一日。ロータリーの理念を胸に、互いに学び、支え合いながら歩むための新たな一歩となりました。

